

刊夕 日一十月八

# 常警每日新聞

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
廣告料 五號十二字 第一行 五拾錢  
日曜 祭日の 週日 休刊  
発行所 常警毎日新聞社  
印刷所 常警毎日新聞社

## 日本精神と神社 (其)

石城郡神社總代人大會席上演筆記

國學院大學教授 文學博士 河野省三

近來、かういふ日本心の特色に一般國民が幾分目覺めて來たと云ふ事は近頃選ばれた青年の歌が皆んな此の氣持を歌つてゐるので推察することが出来るのであります。

神々しー雄々しー瀟々味 懷かしー(優雅)ー床しー 清々しー大らかさー氣品

そこで私は皆様に更に御參考まで申し上げますが、この神々しい氣持が清々しい氣持と合しますると雄々しさの氣分即ち勇氣、強さが現はれてくる。この神々しい御國の爲に、天皇陛下の爲に、或は主君の爲に、信念の爲に、正義の爲にと云ふ氣を鴻毛の輕きに比すると云ふ清々しい氣持が結びつきますると、なか／＼雄々しい氣持になります。元來日本人は優しい國民で、温順なる心の持主であります

が、この神々しい氣持に清々しい氣持が合しますると驚くべき程の雄々しい勇氣を生じて強い國民となります。これが日本心の特色である。茲に日本人の忠君愛國がある。日本人の武士道

は此にその特色をもつてをります。

明治天皇の御製に しさしまの大和心のをしさは

ことある時ぞ現はれにけり

と仰せられたのはかう云ふ譯であります。

日本人の勇氣は之れでなくてはならぬ。必要な事ある時に現はれて來る底力があります。

それから此の神々しさと懷かしさと合致するとみやび(優雅)といふ日本心の第五の特色が出来る。秋の七草のやうな情味であります。

皆さんは明治神宮へ御參拜になつて定めしあの神々しく而もみやびなお造りによつて、一種の温ひい尊い氣分に打たれるのでありませう

これは獨り明治神宮のみならず、何れのお宮へ參つても其の心持が湧き出るのであります。

それから懷かしさと清々しさの氣持とが結付くと、日本心の第六の特色とも云ふべき、おほらかな心もちになる。所謂せ／＼しな

い、小さい事にこたばらぬよく他人を容れる氣もちとなる。これが人となつて表現すると西郷南洲のやうな人物が出来る。これが日本心の第六の特色で、應揚な……畏れ多くも明治天皇の如く帝者の徳、又は將に將たる徳が現はれる大らかな氣もちであります。

皆さん斯う云ふ様な澤山な特色をもつて居るのは日本心である。申上ますれば限りもありませんが、斯う云ふ根本の特色が即ち絶えず生活態度を定めて行くの必要に應じて色々な働きをして行く、然うして本質の力を永遠に伸ばして行く是れが日本心の特色であります

### 常警文藝

窪田志朗

裁判所の門が開いてゐて、掲示板が赤封紙で埋つてゐる。

ガラス窓でも打ち壊したい氣もち、部屋の隅のすみまで、荒れ狂つて行く、若い心。

紺碧の空に描く、煙突の煙りは、俺らの藝術品だ!

### 提灯

御新佛御供養の……  
御法名入提灯の大奉仕  
瓜形 一對房付 金一圓五十錢より  
角形 同 金二圓九十錢より  
其他岐阜提灯種々取揃へてあります  
是非御下命は電話九五番  
平四丁目

スガノヤ提灯店

### 御位牌と佛壇佛具

平町新川町 橋本屋佛具店 電話一六三番

### 中村齒科醫院

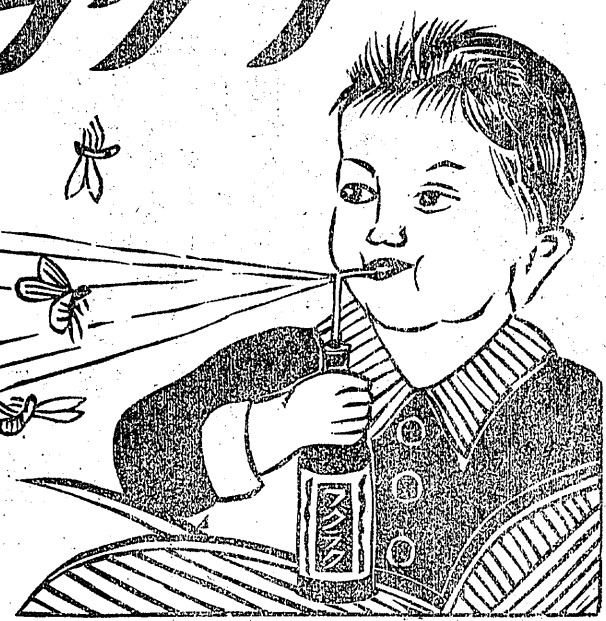
平町鍛冶町七

漆器は 高尚優美、重寶な器物 大暴落の最底値段時代  
御中元の御贈答に (共)の漆器を……

(共)は漆器専門店にて在庫品各種豊富に取揃へ破格の大勉強を致します

(共)共榮漆器店 平町三丁目北裏 (元郵便局裏通り)

### クラクフ



蠅蚊・南京虫・油虫・羽虫・蚤・虱退治にほんの少しで一たまりもなく死ぬ

代理店長 松崎商店 大室屋 平町新川町(電一七二)

### 三井

### タクシー

電話六八五番

毎度御ひいき 有難ふ御座ります  
うなぎの御用命は うなぎ 奴  
平町田町(電話二二番)  
ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

# 一戸當り六百廿圓が 平市民の借財

## 此の重壓を何んとする?

### 町役場の調査

黄金の波打ち寄るといへば、  
れたも今は昔、不況に追ひ  
捲かれた商業都市平町の  
各商家も負債の重壓に耐え  
かねて喘ぎぎつゝあるが最  
近町役場で

調査した全市民の負  
債額を見ると銀行會社より  
の負債が十八万四千四百二十  
六圓で一戸平均三百七十六  
圓に當り信用組合よりは二

十七万九百六十五圓で一戸  
平均五十六圓、低利資金は  
十五萬圓で一戸三十一圓、  
金貸業者からは六十八萬六  
千五百三十圓で

一戸當り百四十二圓  
其他が五萬四千の一戸當り  
十一圓とあり總計すると實  
に二百九十七萬二千九百廿  
一圓一戸平均六百十九圓の  
借財になつて居る

## 平署始つて 以來の大更迭

### 四警部補が昇進榮轉 惜まる、伊藤署長

既報働盛りの伊藤平警察  
署長が休職となつたのは一  
般から非常に惜まれてゐる  
が長澤、佐久間兩警部補が  
警部に昇進し長澤氏は衛生  
課次席、佐久間氏は福島署  
次席にまた橋本警部補が高  
等課、下重警部補が中村署  
次席にと一時に四名の警部  
補が他に榮轉を見るが如き  
は平署始つて以來の事として  
署内はテンヤワンの大騒  
ぎである因に榮轉せる四氏  
は来る十五日頃赴任の豫定  
である

### 磐中水泳部 仙台へ遠征

磐城中學校水泳部にては來  
る二十一、二の兩日仙臺市  
營プールに於て仙臺東北學  
院水泳部主催の下に行はれ  
る北海道、新潟及び東北六  
縣中等學校の水泳大會に出  
場の爲め二十日平發五時四  
十分にて鈴木、中柴兩教諭  
引卒の下に出發する事にな  
つたが選手は左の如く決定  
目下必勝を期して練習中で

あると  
(中距離)遠藤、阿部(短  
距離)新田、中津(ブ  
レスト)芳賀、國井

## 陸の王者を 目標に精進

### 青年團對抗競技 巴狀戦を展開か

既報來る二十一日午前八時  
より磐中グラウンドに於て開  
催される第九回郡下各青年  
團對抗陸上競技會も剩す處  
僅かに十日となり各  
青年團は夫々豫選會を開き  
出場選手を決定必勝を期し  
て猛練習中であるが昨年の  
戦績を見るに一等二十六点  
湯本、二等二十五点内郷、  
三等十五点、平四等十四点  
泉、五等九点四倉の  
順位となつて居り今  
年も大番狂せのない限り結  
局一点の差で優勝を争つた  
湯本、内郷に續いて平の巴

## 新作曲者は 躍る

篤ちゃんの推薦  
門馬直衛記

彼の爲惜しいことに、彼  
氏仲々引つ込み屋である。  
社交屋でない。モダンボー  
イらしく打ツつかればなん  
でもないのに、一押しが彼  
にないのだ。だから初めて

彼に會つた人は此の男が作  
曲出来るかと輕蔑するに相  
違ない。然し彼は彼と交つ  
た男の友と争つたこともな  
し、仲悪く別れたこともな  
い。彼の友は彼を皆ほめる  
徳があるのだらう。彼氏決  
して聖人でも何んでもない  
のだが、悪口を云はれたこ  
とがない。

篤ちゃんの「春野」(ムジ

### 川前青年修養

石城  
郡川前村青年團では來る廿  
日午後二時より小學校に於  
いて團員の精神修養會を開  
催すべく目下講師を物色中  
である

### 勿來共販中止

石城  
郡勿來町農會の共同米販  
賣は昨日行はれる筈であ  
つたが米價安を見越して商  
人が集らぬ爲め中止となつ  
た

### 豐間校同窓會

石城  
郡豐間村小學校同窓會夏季  
總會は來る十九日午前十  
時より同校に開催すると

### 磐中入山と水泳戰

磐城  
中學校水泳部にては來る二  
十七日入山炭礦プールに於  
て入山炭礦水泳部と對抗競  
技會を催すと

### 取消申込

貴紙五日  
付夕刊「詐欺の常習犯が  
自動車に乗つて逃走云  
々」の記事は事實相違の  
點あるを以つて御取消願  
上候(石城郡磐崎村字下  
船尾藁谷宗太郎)

### 平町人事

△六間門二 淺野慶太郎氏  
カ)の五月號所載を見ると  
作曲家が如何に本氣で音を  
考へられたかが知れるだら  
うさうだ、彼は何時でも真  
剣に考へてゐる。俺も急し  
くなりたないなあ!と時々  
こぼす彼にも拘はらず、そ  
して「金儲けが出来たらナ  
ア!」と云ふ彼にも似合は  
ず彼は何時でも深く探つて  
行く。

五男乳  
△播穂小路三四 大和田祐  
之氏長女親子

△舊城跡二 中澤喜市氏長  
女美津子

## 中元特賣

- 洋菓子 盆 三十五錢
  - 洋菓子 盆 四十五錢
  - 洋菓子 盆 四十五錢
  - 洋菓子 盆 六十五錢
  - 洋菓子 盆 八十五錢
  - 洋菓子 盆 一圓五十錢
  - 洋菓子 盆 一圓六十錢
  - 洋菓子 盆 二圓六十錢
  - 洋菓子 盆 二圓七十錢
- 其ノ他種々御用命願ます  
平町一丁目  
和久井屋漆器店  
電話四〇五番

## 音樂講習會

作曲科 和聲學初歩對位法  
伴奏ノ附ケ方  
ピアノ科 歌謡曲ノ作り方

▲期日 十五日ヨリ二十一日マデ

▲會場 平陽女學校

▲時間 (作曲科)午前八時—十一時  
(ピアノ科)午後一時—四時迄

▲講師 武藏野音樂學校卒業中野篤親

▲會費 一科目三圓 二科目五圓

▲申込所 柴田書店 菊屋樂器店

◆初歩の方も歡迎致します

八月十日ヨリ十四日

## 特賣 御返禮銘茶

御家庭用  
京清水燒  
御前茶器  
番茶器  
組三〇錢  
在荷豊富

香味本位の本場銘茶を  
召上りませ

電三九六番  
大勝園

# 先妻のハカで

## 心中を圖る

### 服毒したが死に切れず縊首 女は助かり男獨り死出の旅

## 恵まれぬ一家

### 悲觀して一家心中を

昨日午前六時頃石城郡内郷村大字綴字宮地内松林内  
夫婦者らしい男女が  
縊首自殺を圖り男は絶命、  
女は虫の息となつて居るの  
を通行人が發見届出た爲め  
平署橋谷田部長が檢視し一  
方女に應急の手當を加へた  
結果漸く蘇生したので直に  
平署に引連れ

## 取調べの結果石城郡

湯本町笠井四生れ千葉市西  
院内二九九居住木炭商佐藤  
今朝治(三)及び妻イヨ(四)  
と判明したが今朝治の先妻  
は本年二月長女フク(九)を  
殘して死亡した爲め肩書地  
で酌婦をして居た前記イヨ  
を後妻に迎へたが

## 商賣が思はしからず

本年四月イヨの生地千葉市  
に一家を構へた處此處でも  
失敗して生活難に陥つた揚  
句不運な今朝治は肺を病み  
臥床するに至つたのでイヨ  
は千葉驛前渡邊旅館に女中  
奉公をし細い女の腕で一家  
を支へて居たが今朝治は不  
治の病を

## 忍び込み男の

### 窃盜餘罪が發覺

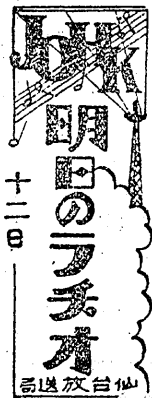
平町鎌田町古物商吉田勝雄  
(三)は去る八日平町月見町  
果物商江戶川安信の妻に懸  
想して忍入り平署に取押へ  
られた事は既記の如くであ  
るが其後取調の結果前記江  
戶川方に此の前忍入つた際

## 丸太ン棒で

### 眉間を發止

### 盜伐と感違ひして

石城郡三坂村大字巻鹽字中  
ノ町草野政隆(三)は去る七  
日午前八時頃自宅附近山林  
で立木を伐採中であつた同  
字の熊谷留太(五)を一圖に



明日のラヂオ  
今晩も明日も東  
南風晴れたり曇  
つたり一時驟雨  
の氣味

## 今晩の部

- 後六〇〇 子供の時間  
獨唱と齊唱 郡山市内小  
學兒童
- 後六三〇 夏期英語講座  
(十二)河合逸治
- 後七三〇 講演「毛利元  
就公の薰代と百万一心」  
水無頼徳太郎
- 後八〇〇 放送舞臺「劇  
勸善懲惡觀機關澤村宗十  
郎一座」
- 後九〇〇 但詠「滿洲歌  
謠」張同善外
- 後九三〇 滿洲より「北  
滿に於ける施療狀況」醫  
學博士野田九郎
- 後九三〇 時報 全國ニ  
ユース 氣象通報 番組

## 女給との結婚を

### 許されず自殺

石城郡小名濱町横町居住丹  
野菅平次男政次(三)は昨夜  
八時頃自宅二階で青酸加里  
を多量に嚥下し自殺を圖り  
苦悶中を家人に發見され應  
急手當を受けたが其効なく  
今朝二時絶命した原因は同  
町内のカフエーマトト事申  
津ナカ方の元女給鈴木ヒデ  
(七)と將來を契ひ兩親に再  
三婚姻の許しを迫つたが許  
されず女は何處へか姿を匿  
して仕舞つたので悲感した  
結果である

## 孫の溺死は

### 爺さんの責任

### 過失致死罪に問はれる

既報石城郡草野村大字下神  
谷字岸居住林万次郎(六)は  
去月十二日立木取に出掛た  
際連れて行つた孫マツノ  
(三)を小川江筋で溺死せし  
めたのは相當注意を欠いた  
爲め過失致死罪に問はれ目  
下平署にて取調中である

## 酌婦を

### 誘き出して

既報石城郡赤井村大字高萩  
目下住所不定無職佐藤正記  
(三)の窃盜事件は本日午前

## 求刑通り

### 窃盜犯言渡

既報石城郡赤井村大字高萩  
目下住所不定無職佐藤正記  
(三)の窃盜事件は本日午前

- 豫告
- 明日の部
- 前九一〇 料理献立「鮎  
の姿鹽」梅田嬌菓
  - 前一〇三〇 修養講座  
「佛の話」清野學道
  - 後〇〇〇 オリズムピク  
大會狀況(米國NBCロ  
サンゼルス放送局より中  
繼)
  - 後二〇〇 婦人講座「政  
治と臺」所婦人參政同盟  
理事高橋千代子
  - 後五三〇 野球大會歌と  
出場校エール(第十八回
- 全國中等學校優勝野球大  
會茶話會場より中繼)  
後六〇〇 子供の時間お  
話「菅茶山の話」門田嘉一  
郎
- 後六三〇 夏期英語講座  
(十二)河合逸治
  - 後七三〇 講演「全國中  
等學校優勝野球大會を顧  
る」和田信夫
  - 後八〇〇 獨唱とピアノ  
獨奏獨唱丹治ハルピアン  
獨奏及伴奏富田三枝子
  - 後八三〇 ラヂオドラマ  
「涼しすぎる風景」築地座  
連中

## 無免許の運轉

石城  
郡小名濱町字船引成三十四  
番地橋橋辰夫方自動車運轉  
助手大日向直水(三)は去月  
四日無免許にて貨物自動車  
を運轉し科料十圓に日本平  
區裁判所に於て略式命令を  
以つて處分された

## 平職業紹介所報告

- △卸賣 二十三才 尋卒  
賣上の一割五分給(平町  
某)
- △女中 三十才迄 尋卒  
給料面談(平町某食堂)
- △出前持 十五才迄 尋卒  
仕着小使(平町某)
- △回求職の部
- △鐵工 二十八才 高一修  
給料面談(好間村某)
- △魚店員 十四才 尋卒  
給料面談(平町某)
- △雜役 二十三才 尋四修  
給料面談(大阪市某)
- △配達 三十三才 高卒  
給料面談(平町某)
- △掃除番 四十七才 高卒  
給料面談(相馬郡某)

# 幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第二百二十四席 眞庭念流の達人櫻井五助

おやまと悶死す

東勝寺の和尚は源太郎の申すを聞き

和「ハイ、承知致しました」

源「ところでこれは些少ではございますが、親分が無縁になりませぬやうに祠堂金として差出しますどうぞ納めて置いて下さいまし」

出したは十兩、和尚はそれを受取つて帳面に附けた別に五兩出して

源「これは早朝よりお寺に御面倒をかけたましたそのお禮でございます」

流石に博徒とは申しながら一方の旗頭になる者は行届いて居ります。これから傷の手當をして居る内にお齋を上れと朝飯を出した、これを食して別れを告げこの東勝寺を出た、自訴する五人を中に入れて他の者は川越まで送つて行く、一同血染の姿、途中で會つたものは驚いて見送る、その日の正午過ぎに松平大和守の郡奉行役宅に山毛谷戸の源太郎、高萩の彌五郎、玉川の權太郎、中新田の源七、唐子の音吉以上五人打揃つて訴へ出しました。もう此時には上尾の足立屋で赤尾の



林藏が高萩の身内に殺された事は知れてゐた。そこでこの五人は入牢となつた。此方は東勝寺の和尚が赤尾村へ人を遣りましたから林藏の親父磯五郎は驚いて親類を伴つて寺に

山城

は確り七首を握つて居ります。磯五郎は只呆氣に取られて涙も出ません。検視が濟みましたからその胸に首を繋いで駕に乗せ赤尾村に引取り一晩通夜をしてこれは菩提所に埋葬いたしました。だが、此時林藏三十二であつた。お話變つて此方は山城屋のおやま、林藏を瞞して足立屋に引出して高萩身内に殺された。その時林藏の爲に拳で脇腹を突かれて一時氣絶をしました。が醫者の介抱に依つて氣が付きましたが、それより床に就て

勘忍しておくんない。床を飛出して廊下を駆け歩く、付添の者は驚いて女「ちよいとおやまさん、どうしたんだよ、誰も居ないぢやアないか、どうしたんだよ」

屋では金箱に鍵が付いては大變と諸方より名ある醫者を招いて手當をしたが抄々しく快くなりません、それに夜が更けて八ツの鐘が鳴り、林藏の殺された時刻になると

やま「親分、わたしが悪かつた、助け下さい。親分

驚いて歸つてしまふ、おやまはこれが原因になつて二十三を一期に世を去りました。そこでこれは久森の東勝寺猪之松の墓の傍に埋めて一周忌に石碑を高萩の身内の者が建てたと聞きました。妙な事があるもので林藏が殺されたその翌年赤尾村の磯五郎の許へ

磯「御機嫌お宜しうございませす、あなたは江戸においでなされると云ふ事を聞きま

したが、要「ウン、江戸にも居たがあれから上州館林に參つて秋元の家中に門人がゐるか、それ厄介になつてゐたところで今度意外な事を耳にして此方へ出て来たが林藏は高萩身内の爲に横死した由、俺も近頃長脇差の許に立寄りぬから其邊の消息も聞かなんだが、それは事實か」

亡父勝二儀本年新盆に相當仕候も故人の遺志に依り提灯の御贈與辭退仕度此段御諒承願上候

亡息茂儀新盆の處時節柄御供物一切御遠慮申上候

故高岡唯一郎  
故伊藤芳吉  
故山崎忠治  
右本年新盆に相當り候處時節柄提灯その他供物一切御辭退申上度此段謹告仕候  
八月九日  
山崎吉平  
伊藤淺之助  
高岡文夫  
森本盛一  
清野音吉  
鹽坂幸子

大和田醫院  
耳鼻咽喉科専門  
平町南町  
電話一七〇

科病柳花科兒小科内  
院醫沼藤  
町屋紺町平  
番五〇七話電  
應需院入